

豊かなつながりと巻き込みのまちづくり

広島県神石高原町 伊藤 邦夫

○ 市民参加とは？

日本から約 10 時間ほど飛行機に乗りポートランドに着いた時の第一印象は、「いい天気だな」という単純なものでした。後から聞くと、この時期は短い乾季の中でも一番過ごしやすく、住民にとってとても楽しみな季節とのこと。爽やかな印象に包まれながら 1 週間という短いながらも充実した研修を迎えることができました。

2 日目の市内探索から始まり、市やメトロ、ネイバーフッドアソシエーション(NA)、NPO といった多種多様な組織とそれに中心的に携わるステークホルダー(関係者)から話を聴きながら共通して感じたのは、多くの市民の参加を図るために、小さな積み重ねを時間をかけて粘り強く築いていく地道な姿でした。

「市民参加」という言葉は非常に耳触りのいい言葉で、私は行政のご都合主義的な業界用語ぐらいに感じていたのですが、毎日、講義終了後に行われていたビアストーミング(ビール片手にブレインストーミング=最高!)で、自分の率直な想いを西芝先生に伝えると、ポートランドで伝えたい市民参加とは要するに「巻き込み」ということなのよ。という言葉聞いて、それまで感じていたモヤモヤが少し晴れた気がしました。

○ 巻き込み

ではその巻き込みには何が必要かとふりかえった時に、リーダーシップとネットワークの2つの要素が挙げられると思います。

リーダーシップというと力強く情熱的なものをイメージしますが、そのあり方は実に様々でアメリカでは相手の政治的立ち位置がその思想に及ぼす影響が大きいことを鑑みて、目立たない、敵をつくらないといった謙虚な人柄を基本として、より多くのステークホルダーと情報の共有を図ろうとする姿勢が印象的でした。

また、アメリカのガバナンス構造に関する講義の中で、日本のそれが既存のコミュニティを基礎としながら意思決定方法はトップダウン的傾向が強いのに対して、アメリカは個人の選択をコミュニティの基礎とするボトムアップ的な特徴をもつということを知り、単なるマネごとをしても決してうまくいかず、自分の所属する組織の性格を知り、分析することの大切さも教えてもらいました。

○ これから私が目指すこと

市内探索では、ポートランドの市民の方たちに直接インタビューする機会に恵まれました。街角にたたずむ警備員、マーケットでアルバイトをする大学院生、公園で家族団らんを楽しむ親子、保健師・・・立場の違う多くの人たちが、ポートランドのことを自然豊かで魅力ある街だということを日本人である私たちに時間を割いて話をしてくれました。

もちろんすべてが完璧ではないけれど、将来を見据えたまちづくりを皆で担っていかうとする情熱は共有されていたと思います。

私の町の住民が同じ質問を受けて、果たして同じように答えてくれるだろうか？・・・

滞在中、同じ疑問が頭の中をぐるぐる廻っていましたが、それを乗り越えるにはまず一歩を踏み出さなければなりません。

最終日のフェアウエルパーティーで、アーバングリーンのリーダーであるチップス氏にその気持ちを話すと、「楽しく、遊びながらやりなさい。自分にできなくても、他人に任せることで新しいアイデアが出てくることもある。でも、それも自分が踏み出すことでしか出てこないんだよ」

自分が何をすべきか、何ができるのか、周りに誰がいてどう巻き込んでいくのか、どんな一歩でも構わないので、この機会を活かすことに力を注いでいきたいと思います。